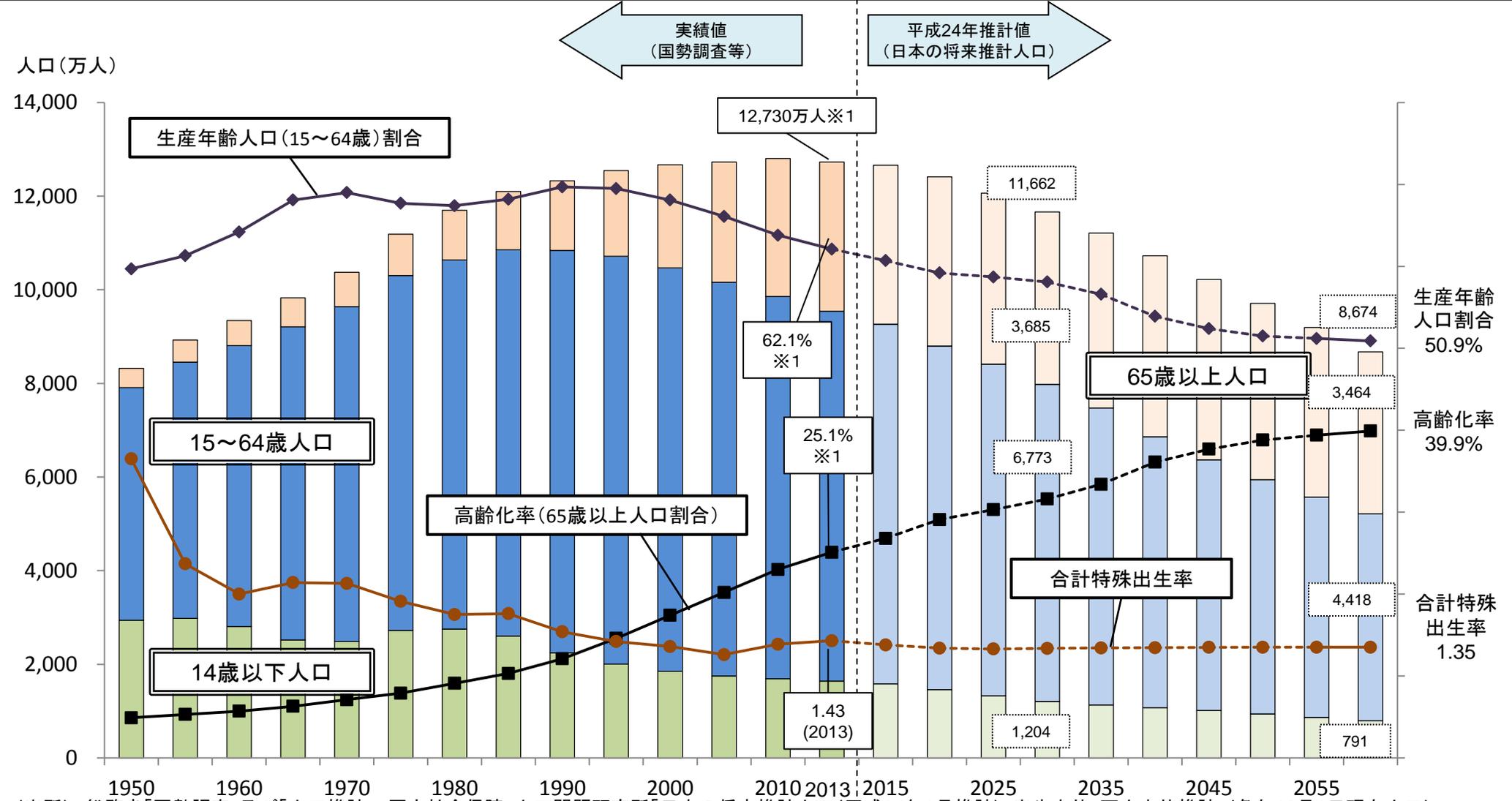


歯科医師需給関係資料

日本の人口の推移

○ 日本の人口は近年横ばいであり、人口減少局面を迎えている。2060年には総人口が9000万人を割り込み、高齢化率は40%近い水準になると推計されている。

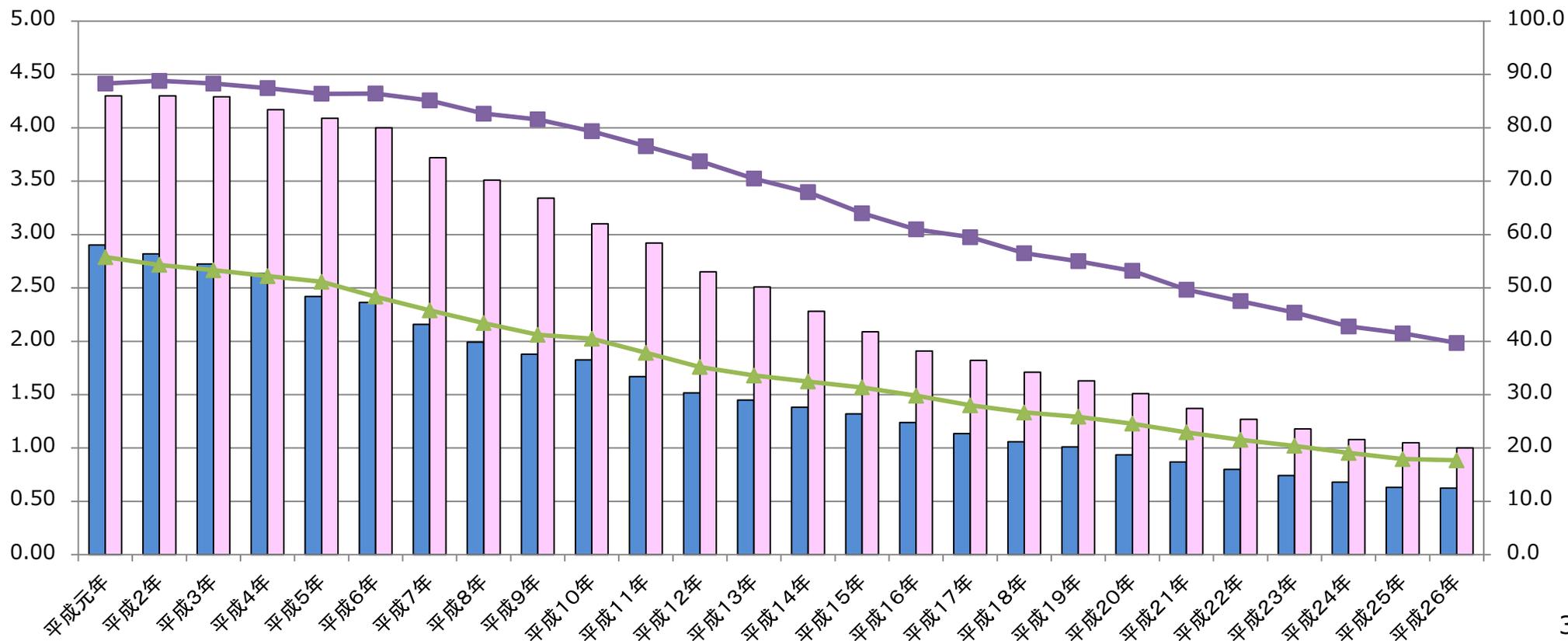


(出所) 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計):出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口) 厚生労働省「人口動態統計」
 ※1 出典:平成25年度 総務省「人口推計」(2010年国勢調査においては、人口12,806万人、生産年齢人口割合63.8%、高齢化率23.0%)

3歳児、12歳児の一人平均むし歯数・むし歯有病率の年次推移

- 3歳児の 1人平均むし歯数は、2.90本（平成元年）→0.62本（平成26年）
むし歯有病率は、55.8%（平成元年）→17.7%（平成26年） と年々**減少**。
- 12歳児の1人平均むし歯数は、4.30本（平成元年）→1.00本（平成26年）
むし歯有病率は、88.3%（平成元年）→39.7%（平成26年） と年々**減少**。

■ 3歳児1人平均むし歯数 ■ 12歳児1人平均むし歯数 ▲ 3歳児むし歯有病率 ■ 12歳児むし歯有病率



20歯以上の歯を有する者の割合の推移

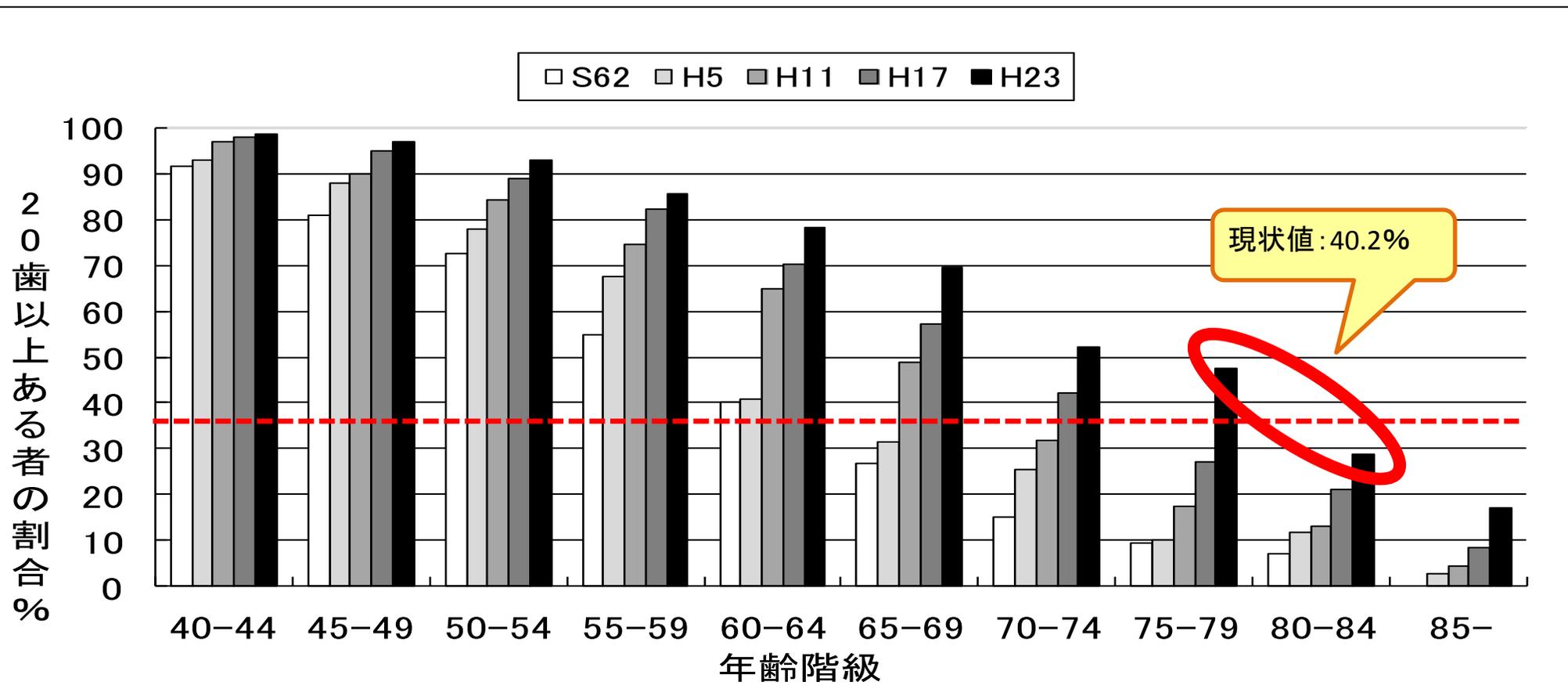
【8020運動の主な経緯】

平成元年：8020（ハチマル・ニイマル）運動が提唱される。

平成12年：都道府県を実施主体とした「8020運動推進特別事業」が開始される。

平成17年：「平成17年歯科疾患実態調査」実施。調査開始以来、8020達成者が初めて20%を超えた。

平成23年：「平成23年歯科疾患実態調査」実施。8020達成者が40.2%となる。

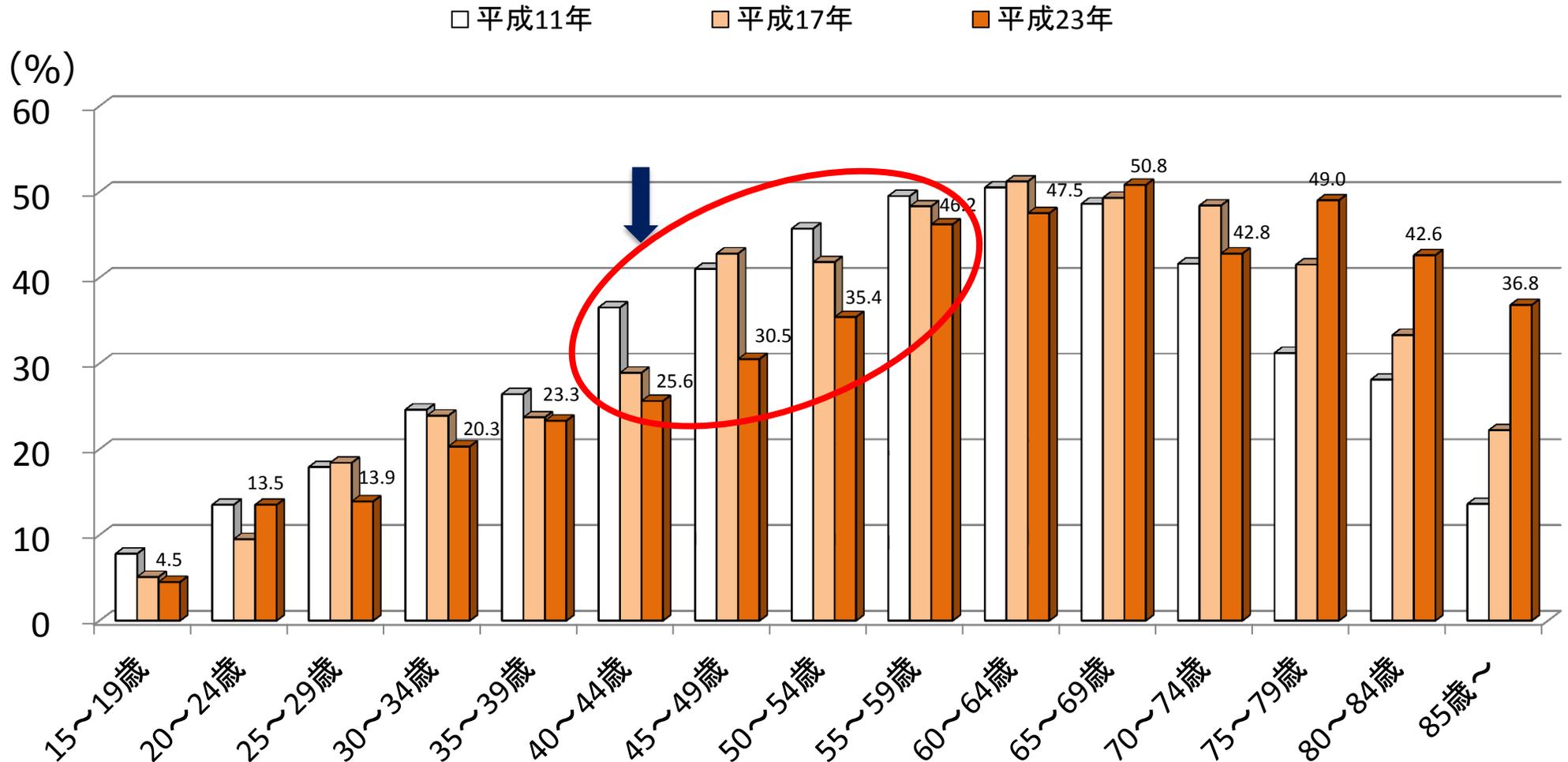


(出典：H23歯科疾患実態調査)

歯周病の罹患率（4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合）

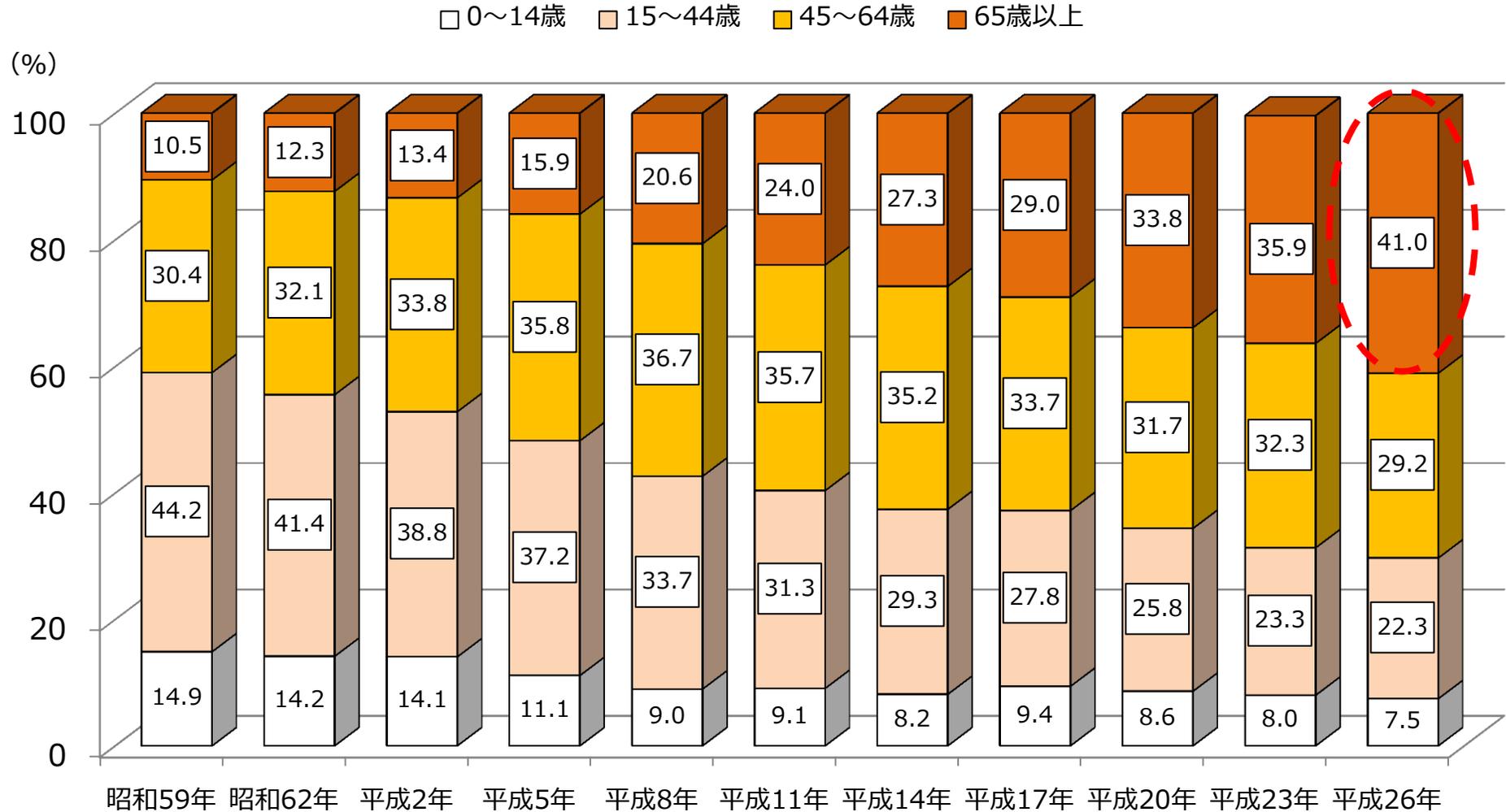
○歯周病は、歯と歯肉の間の溝（歯肉溝）の深さにより診断されるが、4mm以上の深さが病的な歯肉溝（歯周ポケット）の目安となる。

○平成23年度の調査では、高齢者の歯周病の罹患率が増加しているが、これは歯が多く残っている高齢者の増加によるもの。



歯科診療所を受診する推計患者の年次推移（年齢階級別割合）

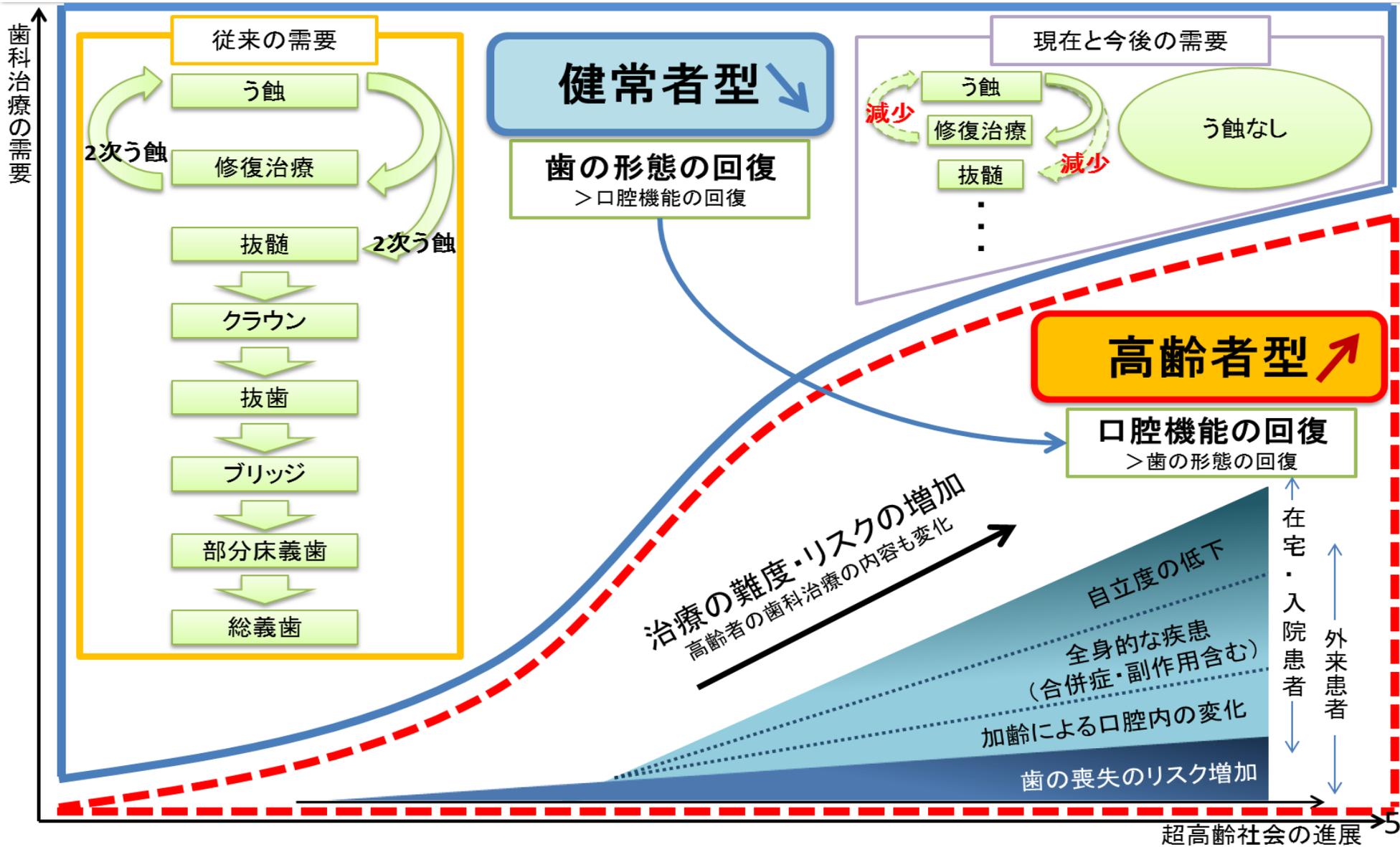
高齢化の進展に伴い、高齢者の歯科受診患者は増加しており、**歯科診療所の受診患者の40%以上が65歳以上**となっている。



(出典：患者調査)

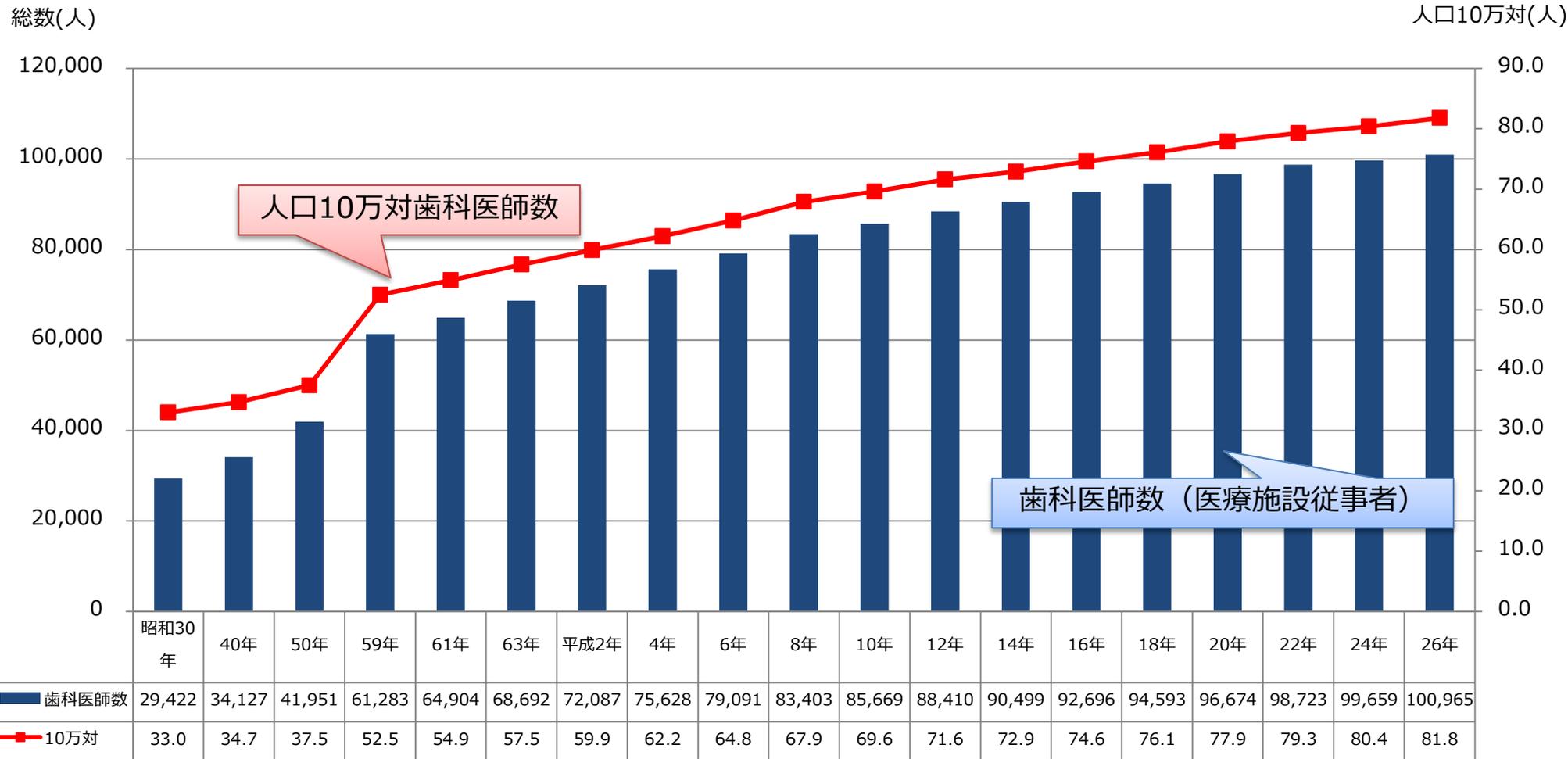
歯科治療の需要の将来予想 (イメージ)

- 少子高齢化の進展や、歯科疾患の罹患状況の変化に伴い、これまでの歯の形態の回復を主体とした、いわゆる「健常者型」の歯科治療の需要は減少し、全身的な疾患を有するなど治療の難度・リスクの高い、いわゆる「高齢者型」の歯科治療の需要が増加することが予想される。

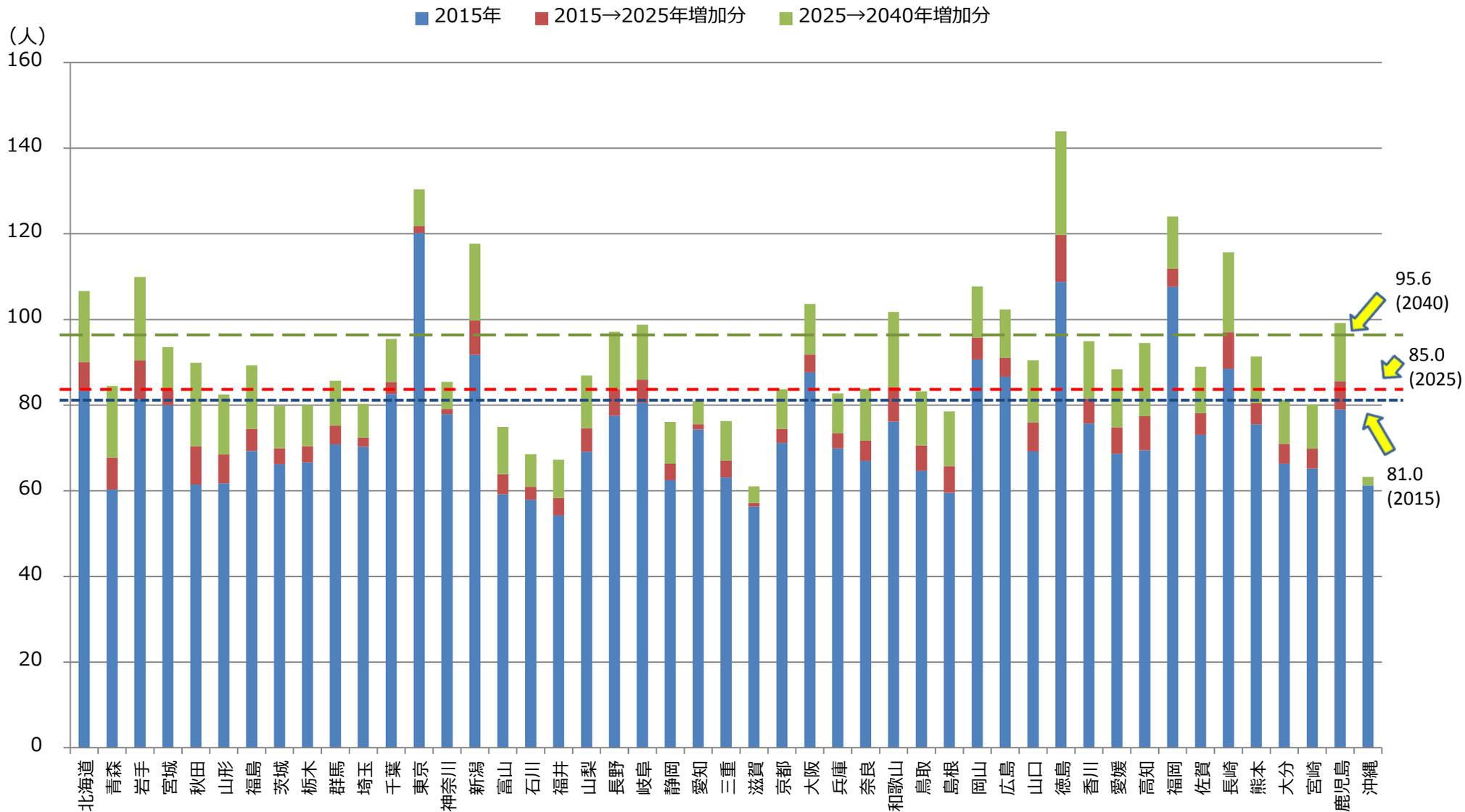


歯科医師数（医療施設従事者数）の年次推移

- ◎平成26年の**歯科医師総数は103,972人**、そのうち**医療施設従事者数は100,965人**
- ◎人口10万対歯科医師数は、S45：**35.2人**→S55：**44.1人**→H6：**64.8人**→H16：**74.6人**→H26：**81.8人**と増加
- ◎医療施設に従事する歯科医師の伸び率（平成24年→平成26年）は、**1.31%**とやや鈍化



人口推計に基づく人口10万人対歯科医師数予測



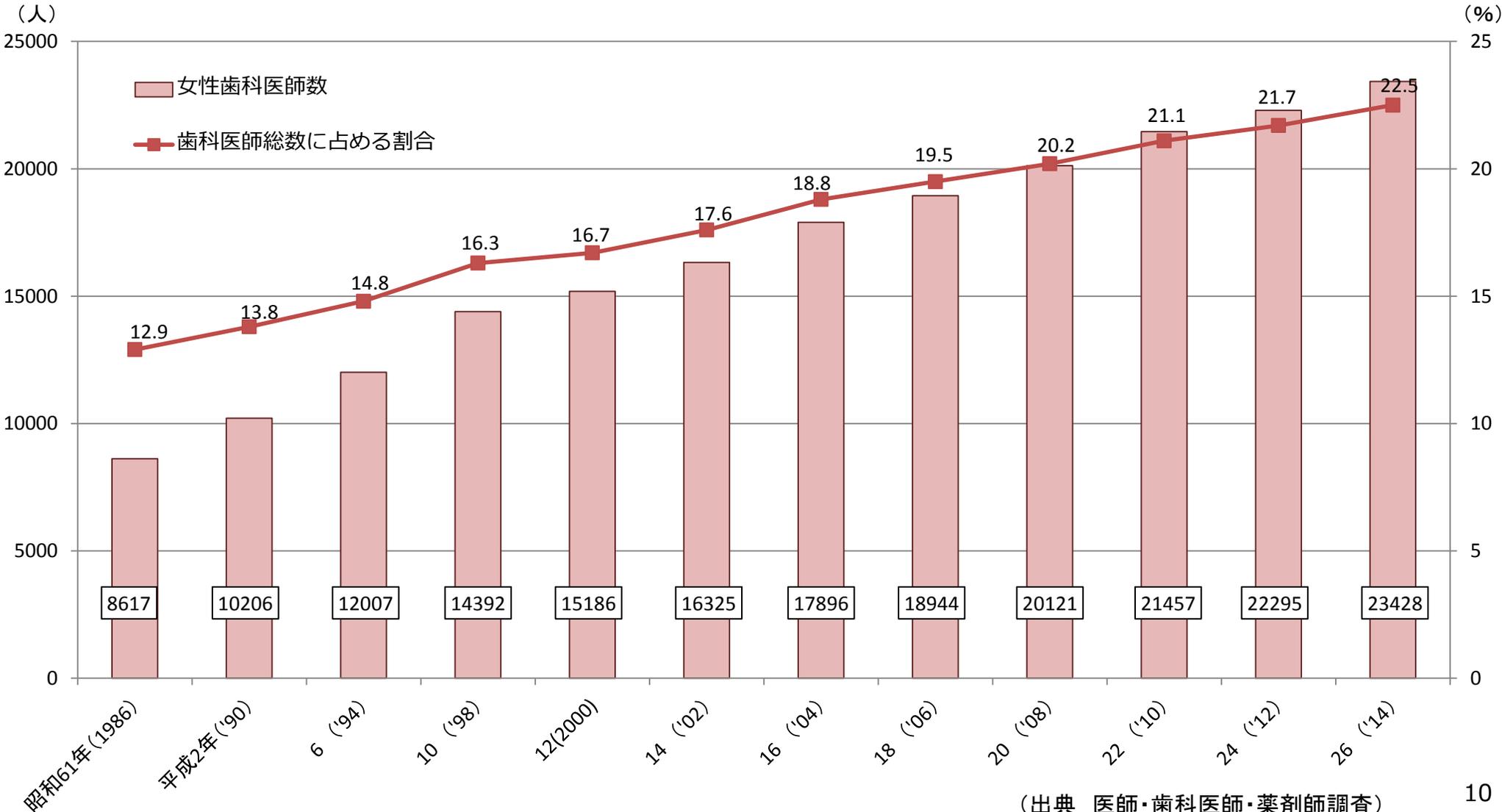
注1) H24年末歯科医師数が変化しない仮定で、地域別将来推計人口を基に人口10万人対歯科医師数を算出

注2) 沖縄県は2015→2025年増加分が-0.2

女性歯科医師数・率

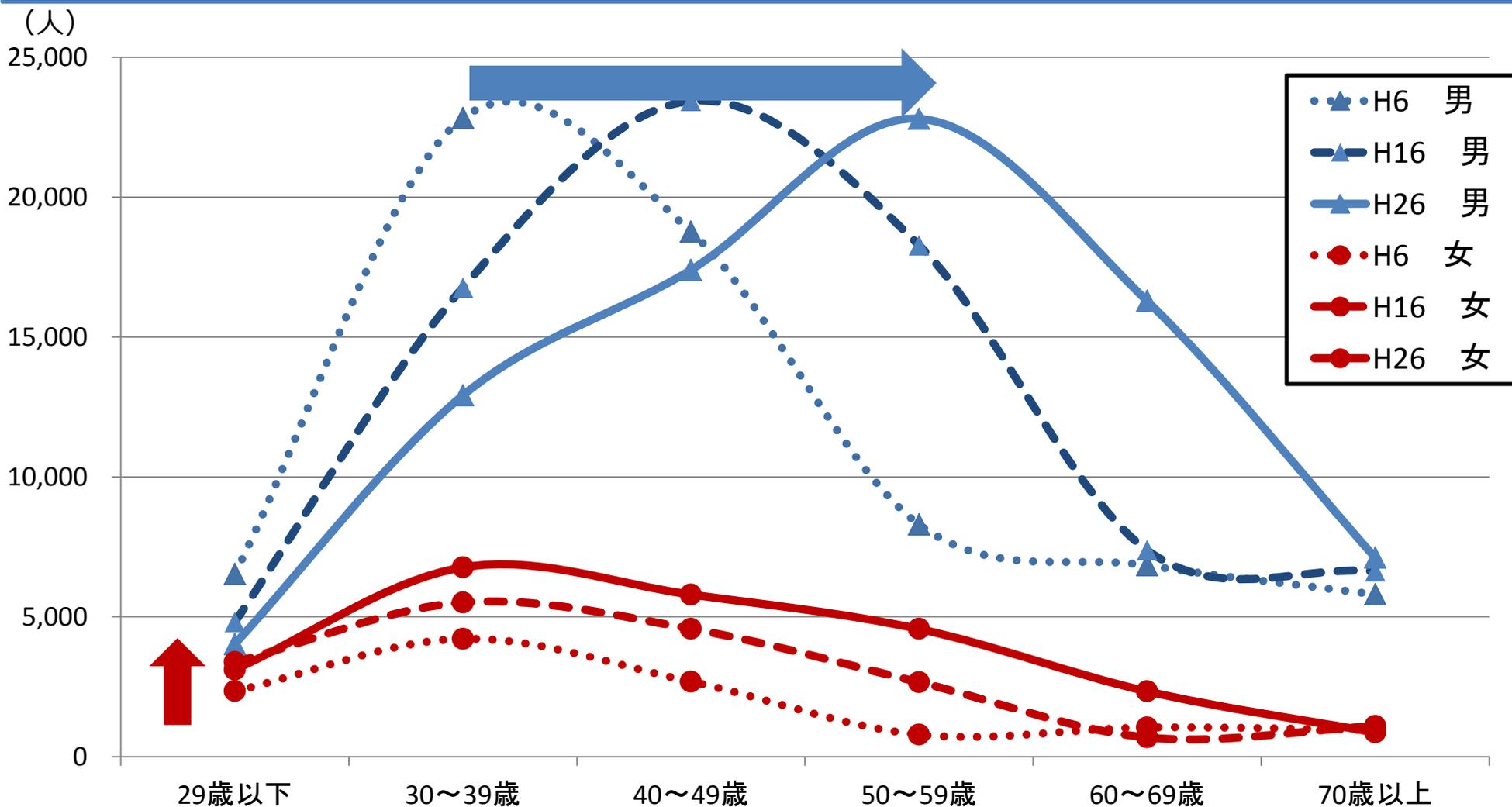
◎平成26年の**女性歯科医師数は23,428人**

◎女性歯科医師数の歯科医師総数に占める割合は、S61 : 12.9%→H10 : 16.3%→H20 : 20.2%→H26 : 22.5%と増加



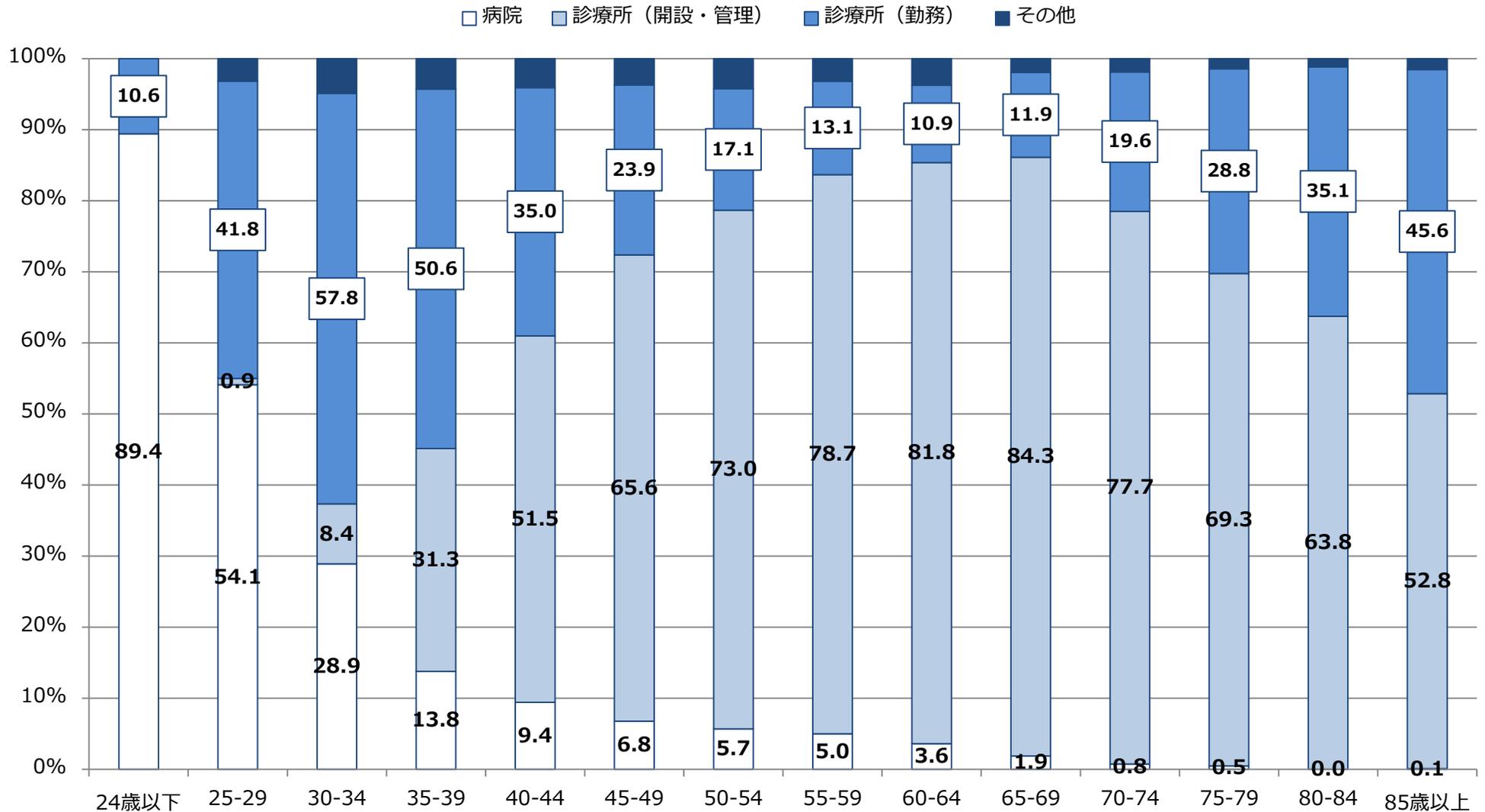
年齢階級別の歯科医師数の推移（男女別）

年齢階級別の男性歯科医師数のピークは経年的に高齢化しており、平成24年調査では50～59歳が最頻値となっている。一方、女性歯科医師数は全体的に増加している。



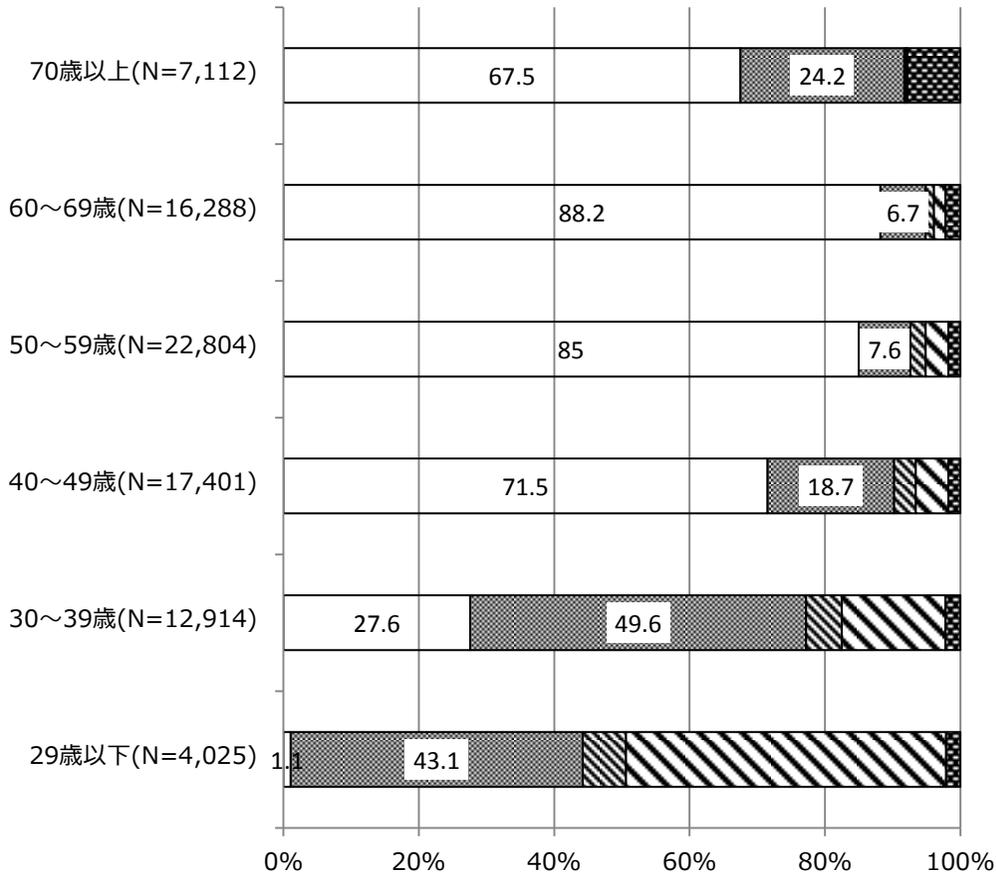
主として従事している歯科医師の就業場所（年齢階級別）

年齢が高くなるにつれて**65～69歳までの年齢階級まで相対的に診療所（開設・管理）の割合が多くなっている。**



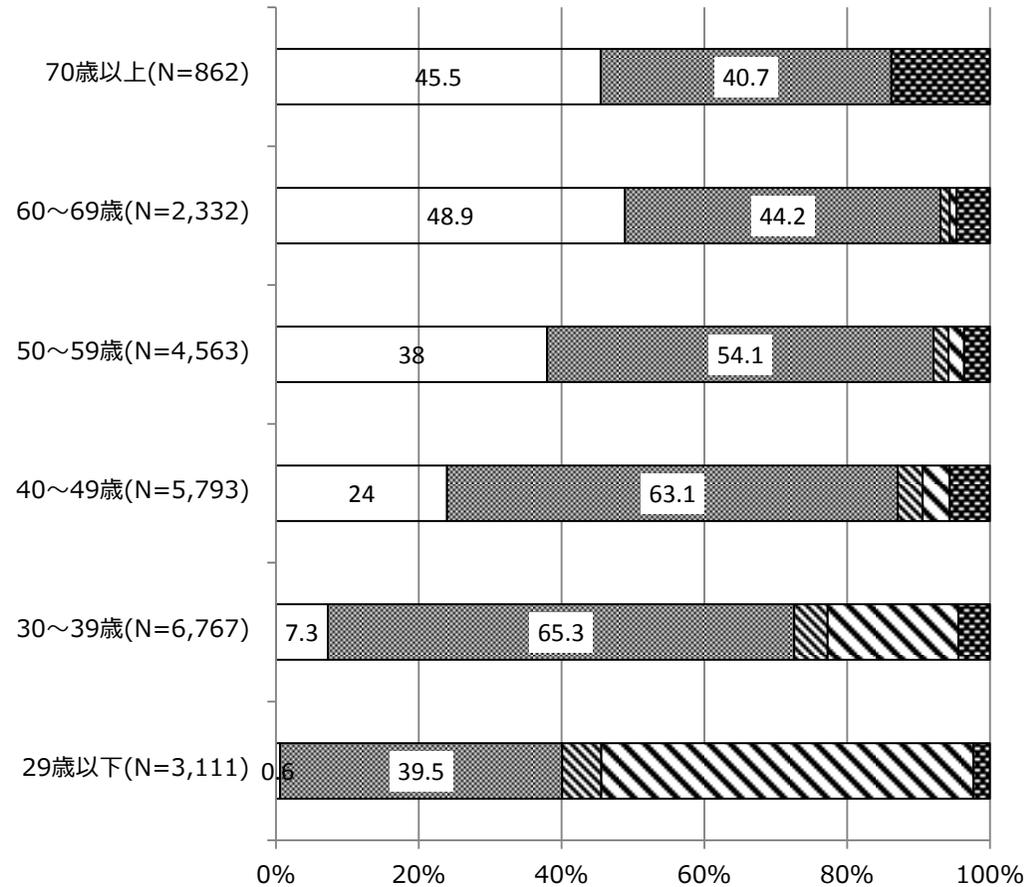
勤務先別の歯科医師の割合（男女別）

<男性>



- 診療所の開設者
- 診療所の勤務者
- ▨ 病院の勤務者（医育機関の勤務者は除く）
- ▧ 医育機関の勤務者
- ▩ その他

<女性>

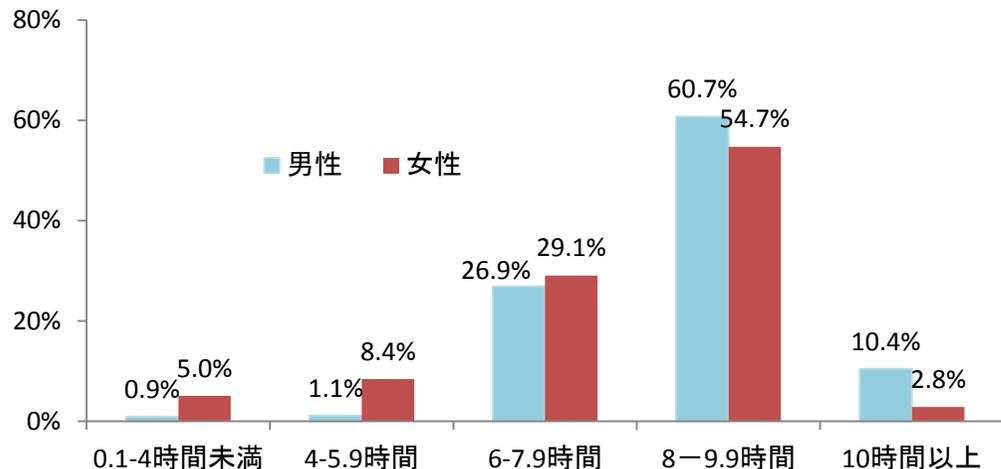


- 診療所の開設者
- 診療所の勤務者
- ▨ 病院の勤務者（医育機関の勤務者は除く）
- ▧ 医育機関の勤務者
- ▩ その他

女性歯科医師及び高齢歯科医師の仕事量

○男女別の仕事量（勤務時間）

男女別の調査日の勤務時間（N = 1,083）



・最頻値（8-9.9時間）で比較した場合は

性別	割合	男性 1 とした場合
男性	60.7%	1.0
女性	54.7%	0.90

・1人当たりの就業時間で比較した場合は

性別	就業時間	男性 1 とした場合
男性	7.55H	1.0
女性	6.74H	0.89

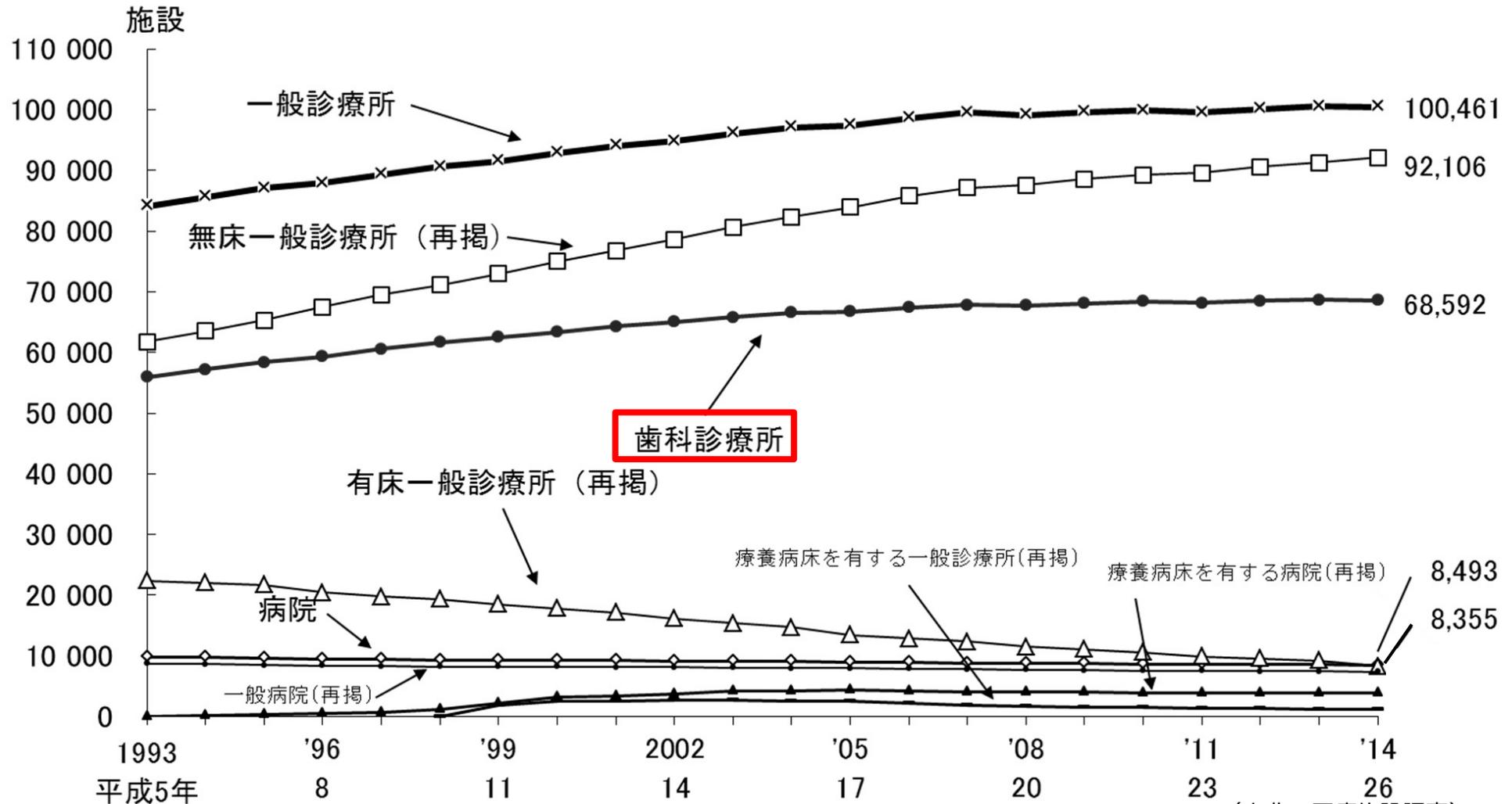
○世代別の仕事量（勤務時間）

世代別の歯科医師の勤務時間（N = 1,323）

	40歳未満	40-65歳未満	65歳以上
勤務時間	7.8±1.3	8.0±1.5	7.8±1.6

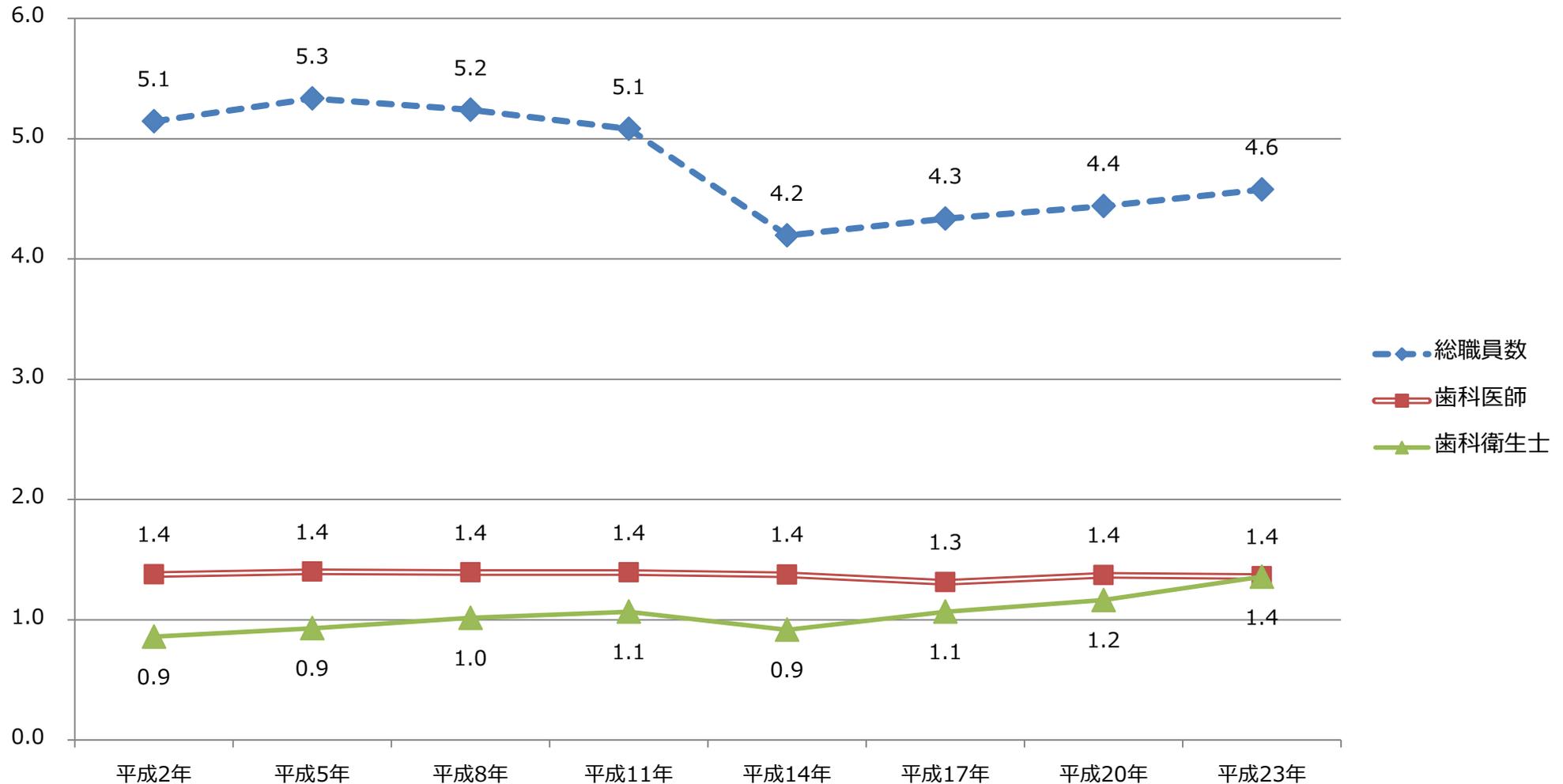
医療施設数（歯科診療所）の年次推移

歯科診療所の施設数は52,216施設（平成2年）から68,384施設（平成22年）と20年間で増加していたが、平成23年医療施設調査では廃止・休止の歯科診療所が開設・再開を上回り228施設減少、その後ほぼ横ばいに推移しており、**平成26年は68,592施設（対前年：109施設減）**である。



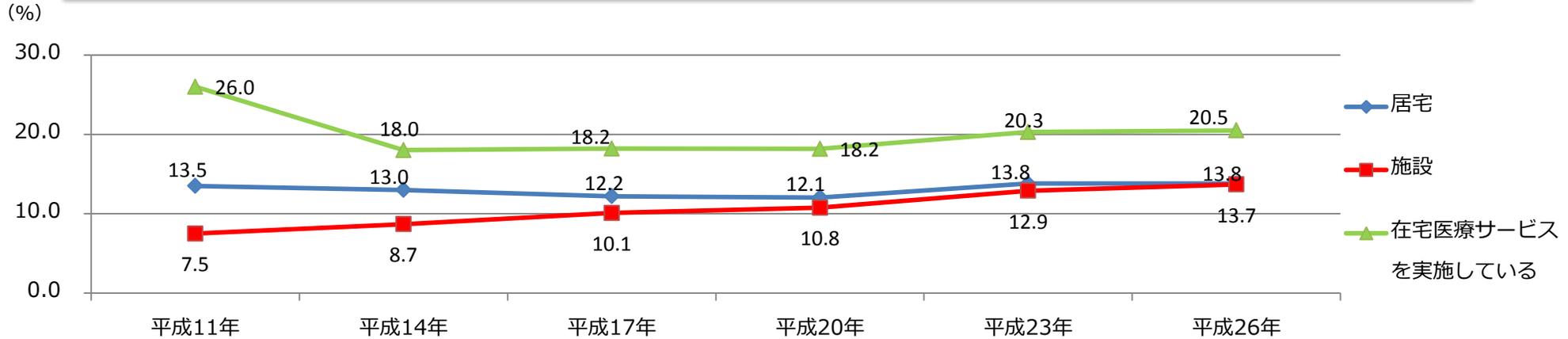
歯科診療所の従事者数（常勤換算）

- ・ 歯科診療所は、常勤換算の**従事者数が5人以下の小規模事業所**である。
- ・ 1診療所あたりの歯科医師数は1.4人である。（常勤1.2人、非常勤0.2人）



歯科訪問診療を実施している歯科診療所の割合（訪問先別）

- ・月に一度でも在宅医療サービスを提供している歯科診療所や居宅で在宅医療を提供している歯科診療所は横ばい。
- ・施設において歯科訪問診療を実施している歯科診療所は、調査を重ねるごとに増加している。

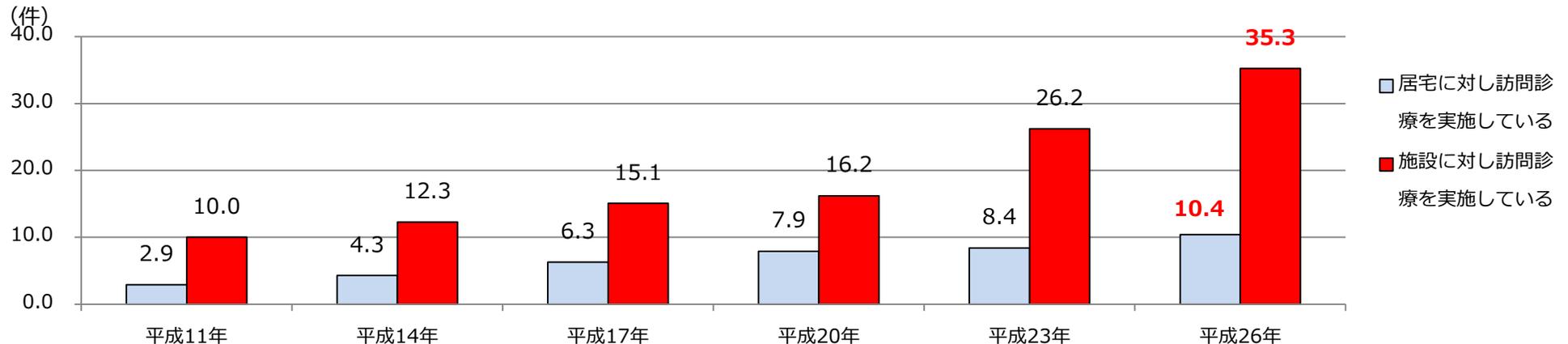


注：平成23年は宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県の全域を除いて算出

(平成26年医療施設調査)

1 歯科診療所当たりの歯科訪問診療実施件数（毎年9月分）

- ・1歯科診療所当たりの歯科訪問診療実施件数（9月分）は、調査を重ねるごとに増加しており、特に、施設での増加が顕著



注：平成23年は宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県の全域を除いて算出

(平成26年医療施設調査)

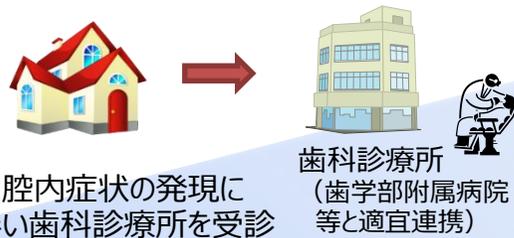
歯科医療サービスの提供体制の変化と今後の展望

- 1980年代までは、う蝕処置や補綴治療など、歯の形態回復を主体とした医療機関完結型の歯科医療の提供が中心であった。
- しかし近年の歯科保健医療を取り巻く状況の変化に伴い、各ライフステージや身体の状態に応じた歯科保健医療サービスを提供できる体制への転換が図られるようになり、**これからは地域完結型の歯科医療提供体制の構築が重要**である。

● 近年の歯科保健医療を取り巻く状況の変化

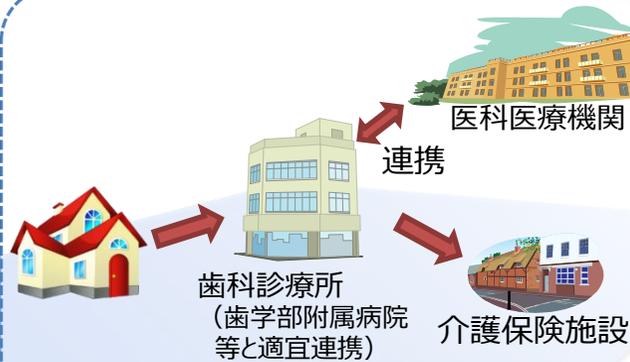
- ・高齢化の進展等の人口構造の変化
- ・う蝕の減少等の疾病構造の変化
- ・ITの普及等による患者意識の変化
- ・歯科治療技術の向上

1980年



【患者の特性とその対応】
う蝕等の歯科疾患に対する、う蝕処置、抜歯、補綴治療などの歯の形態回復を目的としつつ、歯科医療機関完結型の歯科医療の提供が主体

2010年

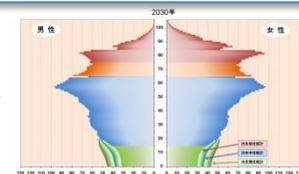
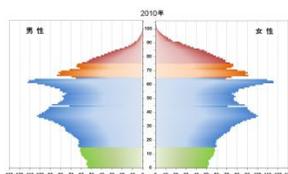
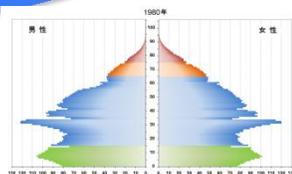


【患者の特性とその対応】
う蝕が減少する一方で、高齢化の進展や疾病構造の変化等に伴い、患者の病態像に応じた歯科医療ニーズが高まってきた。

2025年 (イメージ)



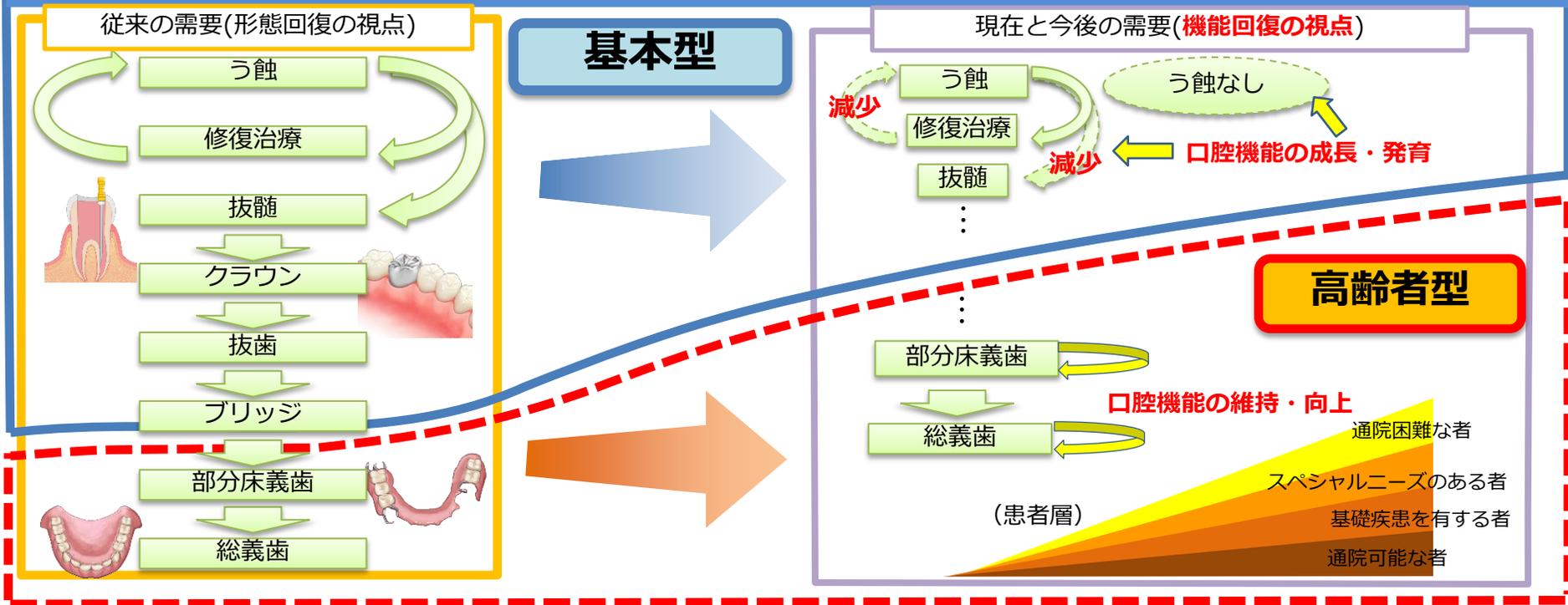
【患者の特性とその対応】
今後、より一層の高齢化が進展する中で、住民のニーズに応えるために、医科医療機関や地域包括支援センター等との連携を含めた地域完結型医療の中での歯科医療の提供体制の構築が予想される。



人口ピラミッドの変化 (1980、2010、2030)

歯科医療の需要とあるべき歯科医療提供体制のイメージ【たたき台】

歯科医療治療需要



～平成初期

2025年以降

歯科医療治療の提供

